

南アフリカ 柑橘類貿易における市場アクセスを重視

[FreshPlaza 2025年11月7日](#)

貿易の不確実性を背景に、南アフリカ柑橘類生産者協会 (CGA) のCEOであるボイツォコ・ンチャベレ博士は、市場アクセスの拡大は柑橘類産業とより広範な経済の両方の成長にとって依然として中心的課題であると述べた。

西ケープ州で開催された南アフリカ農業ビジネス会議所 (Agbiz) の円卓会議で講演したンチャベレ氏は、関係者との議論において、信頼、尊重、安全の重要性を強調した。同氏は、コンプライアンスと調査を通じた市場アクセスの拡大、維持、改善に焦点を当てた「獲得、維持、最適化」(GRO)戦略の概要を説明した。

「獲得 (Gain)」は、科学的根拠に基づくアクセスプロトコルを通じた新規市場への進出を意味する。「維持 (Retain)」は、品質、持続可能性及びコンプライアンスを通じて既存市場を維持することを指す。「最適化」(Optimise)は、継続的な研究開発を通じた現行の市場プロトコルの改善を意味する。

ンチャベレ氏は、柑橘類部門が依然として変革、包括、成長の推進力であると述べた。業界の将来展望である「ビジョン260」は、2032年までに2億6千万箱 (15kg/箱) の輸出を目指しており、これは10万の新規雇用を創出する可能性がある。

「業界と政府の方向性の一致が協力の枠組みを提供し、包括的な成長、変革、さらに国際競争力が確保される。輸出される1箱1箱の柑橘類の背後には、この産業に生計、教育、社会的安定を依存する地域社会が存在する」と同氏は述べた。

同氏はまた、植物病理学、昆虫学、及び収穫前後の管理に関する実証的研究成果を提供し、南アフリカが柑橘類科学の分野で世界的リーダーとしての地位を維持するのに貢献している柑橘類研究インターナショナル (CRI) の役割を強調した。

ンチャベレ氏はさらに、柑橘類生産者は果実の輸出者であるだけでなく、知識、持続可能性、共有された繁栄の提供者でもあると指摘した。

Agbizの果実部門のマネージャーであるウルフ・ブラウデ氏は、南アフリカの果実輸出の概況について言及し、36%が欧州連合向け、17%がアジア向け、15%が中東向け、13%が英国向け、7%が米国向け、5%がアフリカ向けであると述べた。

同氏はまた、農産物の輸出額は鉄鉱石のほぼ2倍、クロム鉱石の約3倍、鉄鋼製品の2.7倍、機械類の1.7倍であると付け加えた。

農業用防除資材に関するパネルディスカッションでは、これらの製品の規制及び責任ある使用、残留基準、零細農家が直面する課題が取り上げられた。

パネルでは、世界的な化学企業による投資撤退が研究へのアクセスを制限し、旧式の製品への依存を余儀なくされる可能性があるとして指摘された。

南アフリカの多様な気候及び病虫害の圧力の下では、生物学的、文化的、化学的手法を組み合わせ、個別の状況に応じた病虫害管理が必要である。

1947年法第36号の最近の改正は、低リスクの防除資材を優先し、国内規制を国際基準に整合させることで、化学物質の使用を削減しつつ効果的な防除を維持する総合的病虫害管理システムを支持している。

出典: Food For Mzansi